

セッションのまとめとして (樋口が最近おぼろげに思っていること)

陸面過程は大気－陸面相互作用という狭い filter で見るから(大気・気候system側から見て)貢献していないという見方をされるのであって、本来の意味(風土論, 政策論等々も鑑みて考えると)

- a. サイレントで時間的に遅い事象だが不可逆なものに症状が現れることが多々ある(例: 中国華北平原の地下水枯渇)
- b. 表だって出てくるときにはイベントとして出やすい.
- c. “水”というより, “物質”に出やすいのではないだろうか?

→ dust event の増加等. しかもリカバーは短期でできない.

という極めて社会性が強い事象, あるいは強い社会性を潜在的に持った対象であるにもかかわらず, 研究する側の視野の問題, おかれた環境(成果主義?)で損をしていないか?

